

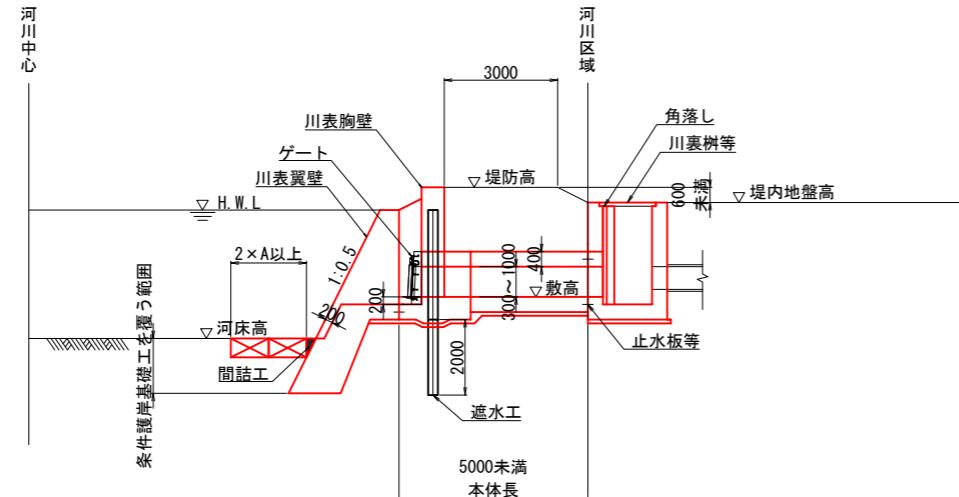
# 一般図集



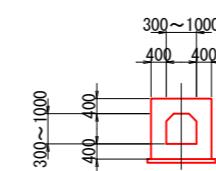
# 小規模樋管一般図(案)

S=1:100

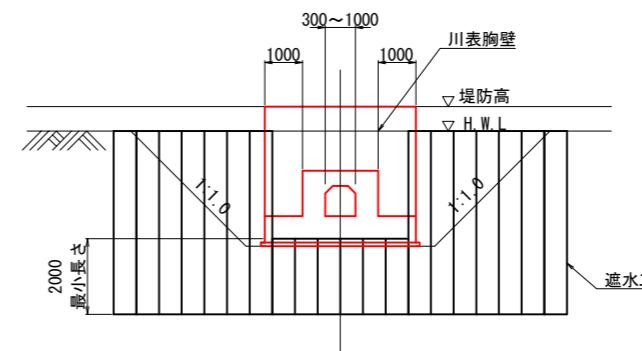
縦断図



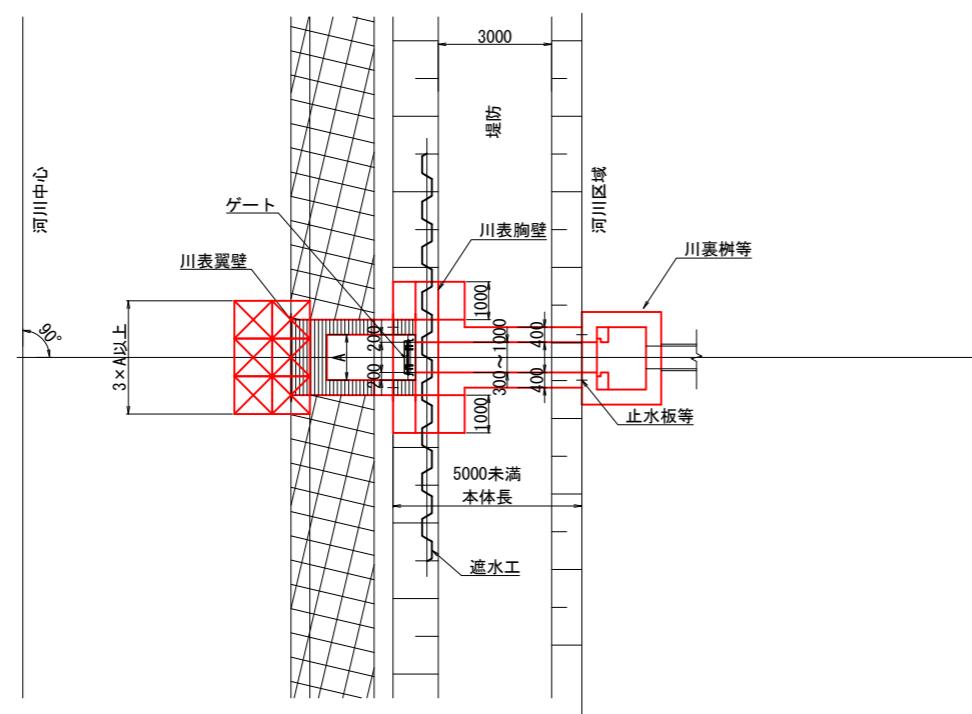
標準函体部



川表胸壁部



平面図

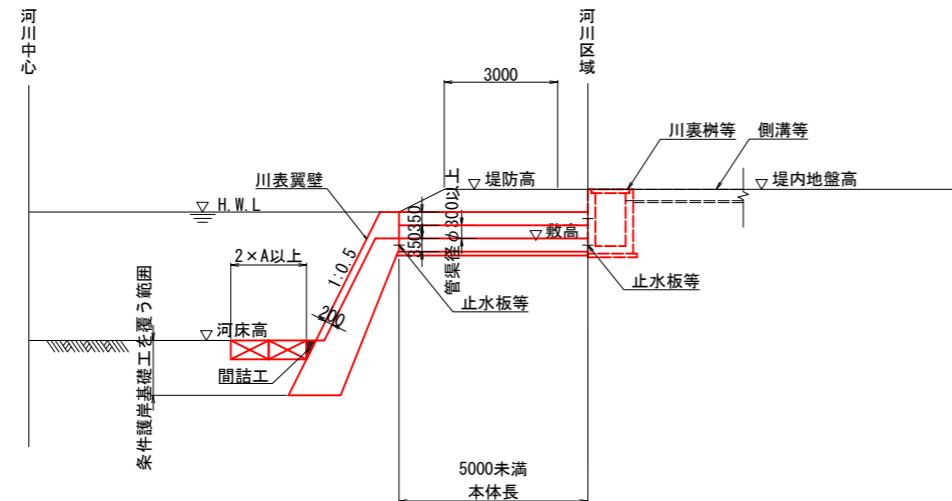


業務名	
路河川名	
施工箇所名	
図面の種類	小規模樋管一般図
縮尺	1:100
図面番号	

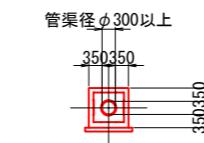
# 排水吐口工一般図(案)

S=1:100

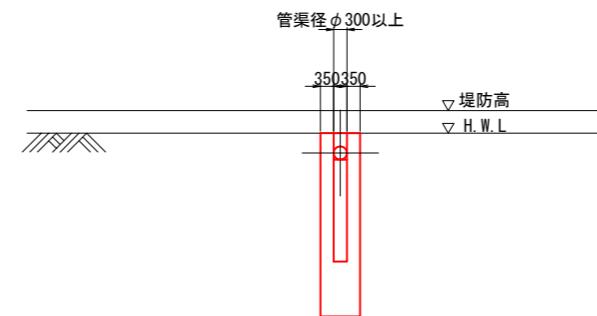
## 縦断図



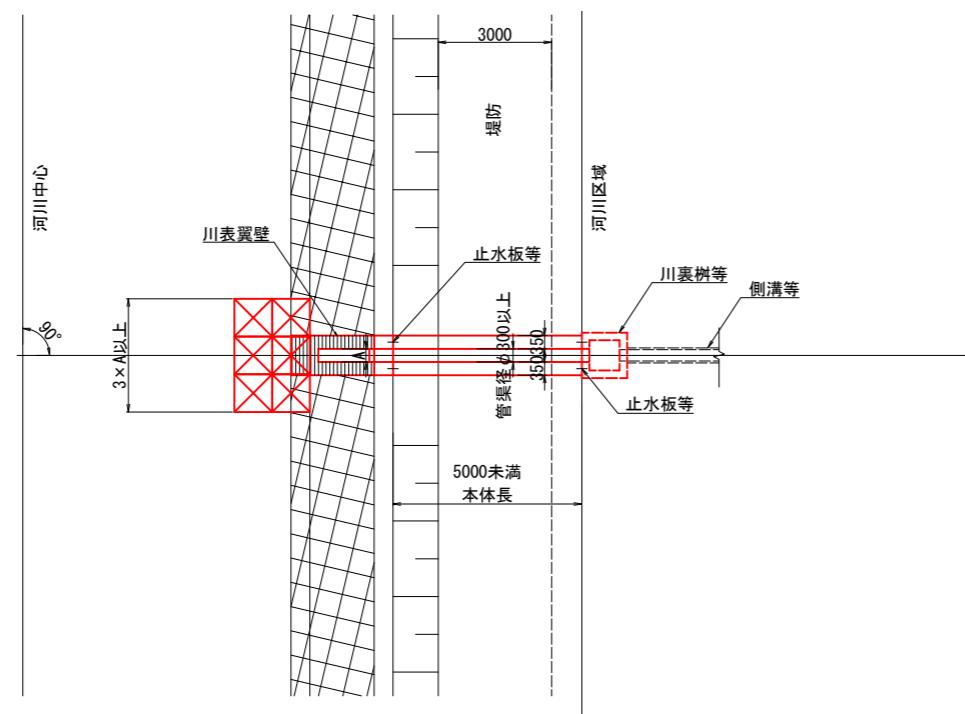
## 標準函体部



## 川表翼壁部



## 平面図

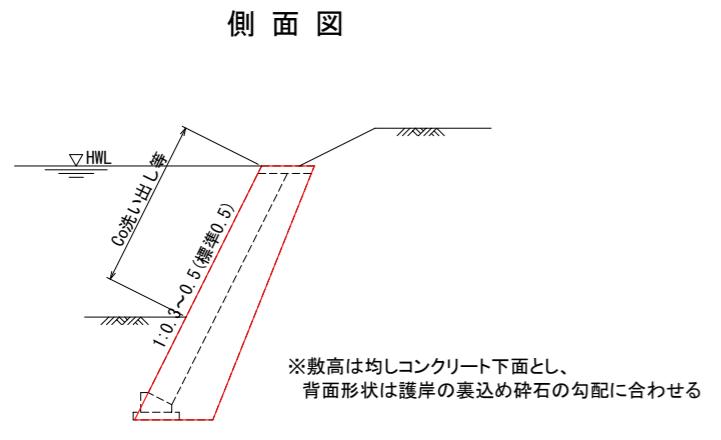


業務名	
路河川名	
施工箇所名	
図面の種類	小規模樋管一般図
縮尺	1:100
図面番号	

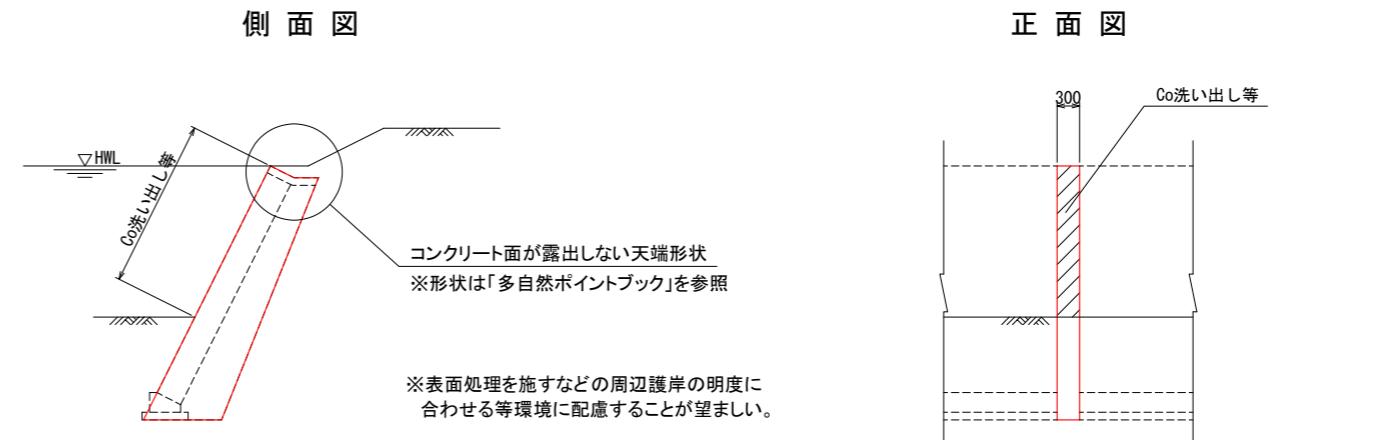
# 小口止一般図(案)

S=1:50

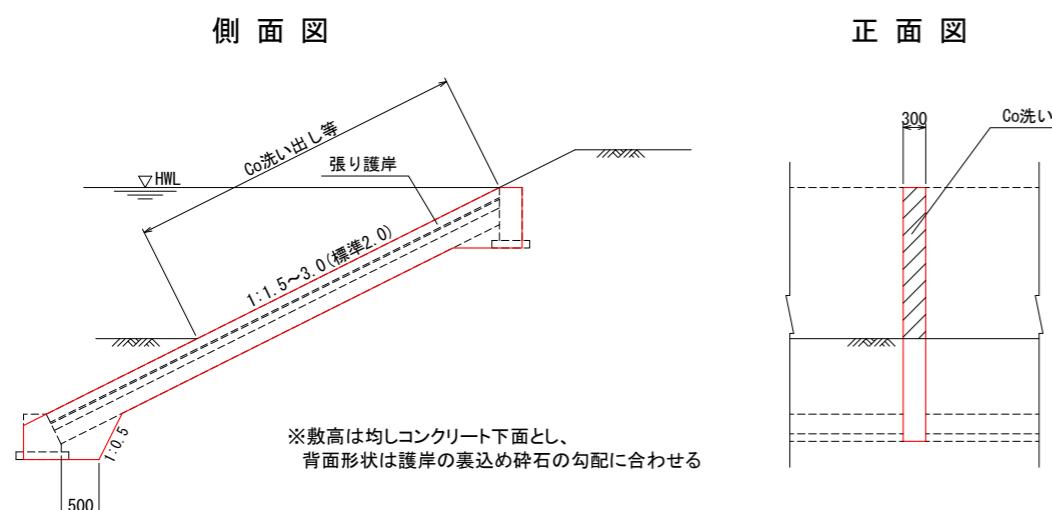
小口止(積み護岸)A



小口止(積み護岸)B

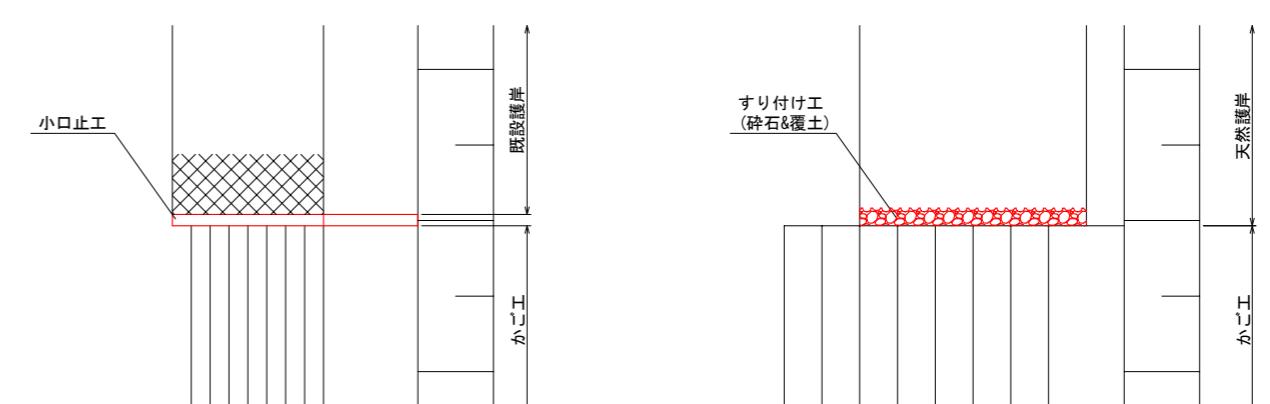


小口止(張り護岸)

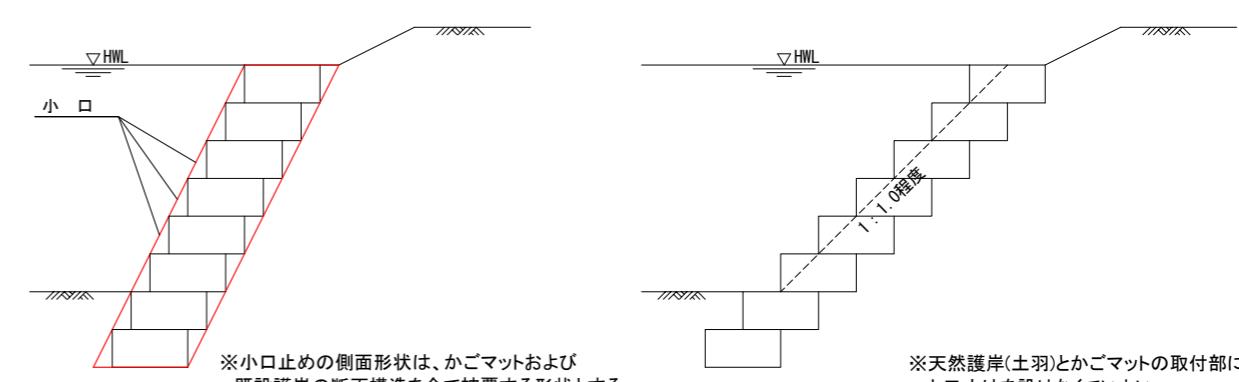


(補足)  
局部修繕工事など、かごマット工を実施する場合、既設護岸との端部処理は、下記を標準とする。

平面図



断面図



小口止工は、法覆工の小口保護や、構造・勾配の異なる法覆工の接続等の小口処理を行う必要がある場合に設置する。災害事業では、本復旧する構造物の両端に設置することを基本とする。

## 計画ポイント

- ① 小口止めの側面形状は、小口止めに接する護岸の断面構造を全て被覆する形状とする。
- ② 小口止めの部材厚は、t=300mmを標準とする。
- ③ 小口止めの背面形状は、護岸の裏込め碎石の勾配線に合わせる。

※小口止めの側面形状は、かごマットおよび既設護岸の断面構造を全て被覆する形状とする。

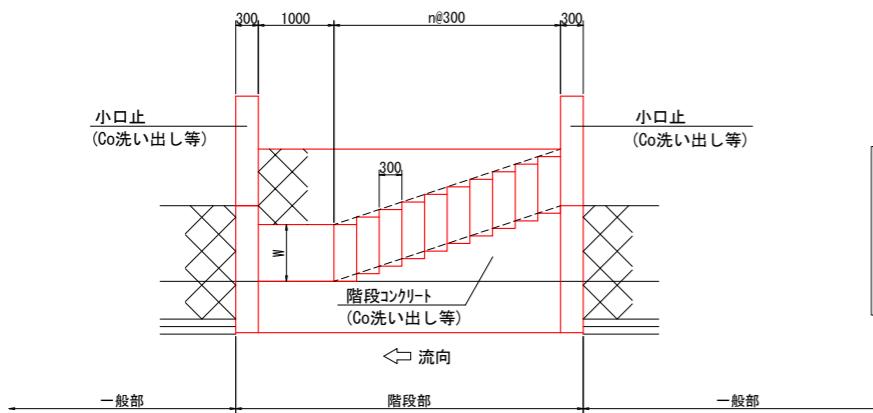
※天然護岸(土羽)とかごマットの取付部には小口止はを設けなくてよい。

# 階段一般図1(案)

## コンクリートタイプ

S=1:50

平面図



1 目的

河川施設の一環とし、河川管理上、水際までのアプローチの確保のため設置する。

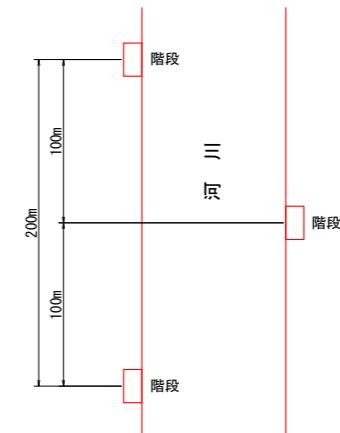
2 設置間隔

設置間隔は200mを標準とする。ただし、河川の規模など全体的な配置等を考慮すること

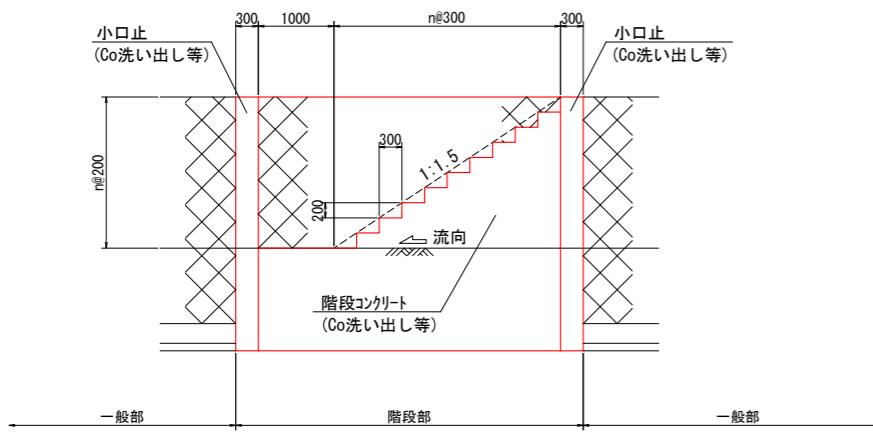
計画ポイント

- ① 階段幅Wは0.5m～1.0mとし、標準0.75mとする。
- ② 階段のステップ幅は0.3m、ステップ高は0.2mを標準とし、端数は階段下端部にて調整する。
- ③ 2割勾配の護岸における階段工は「河川構造物設計要領(中部地盤)」を参照する。

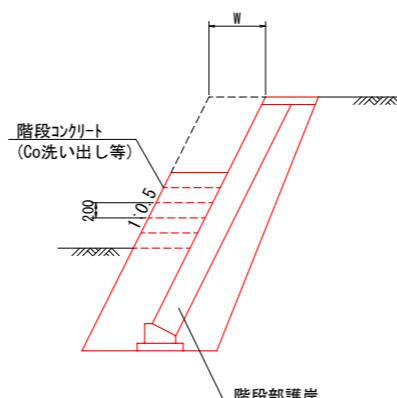
階段平面配置図



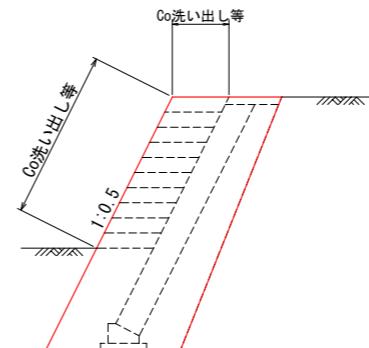
正面図



階段部

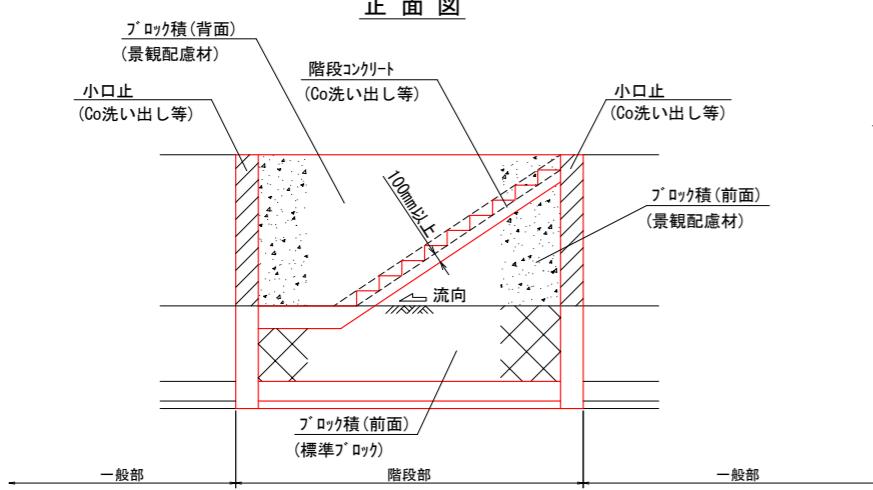


小口止部

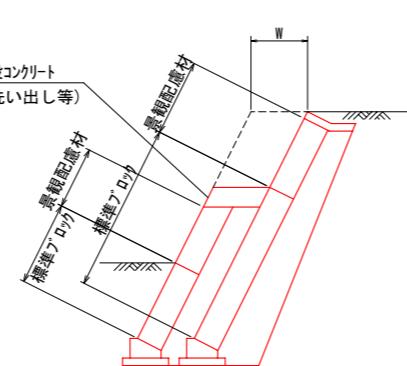


## ブロックタイプ

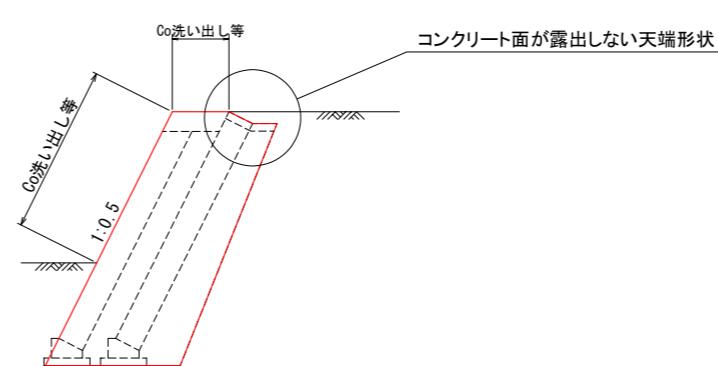
正面図



階段部



小口止部



※階段コンクリート厚は、ステップ部を除いた部材最小厚として100mm以上になるよう計画する。

※無機質なコンクリート面がそのまま露出しないように  
河川全体の整備イメージと整合した計画を行う  
(粗面ブロック等の採用及びCo洗い出し等)

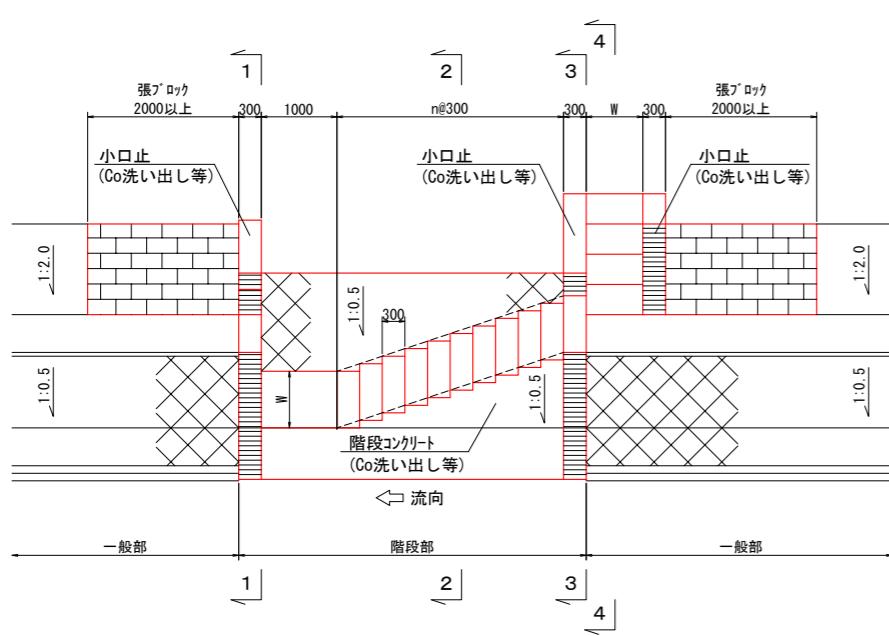
## 階段一般図2(案)

S=1:50

### アプローチ階段付タイプ

階段平面配置図

平面図



1 目的

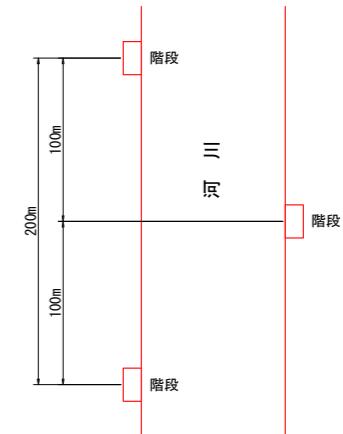
河川施設の一環とし、河川管理上、水際までのアプローチの確保のため設置する。

2 設置間隔

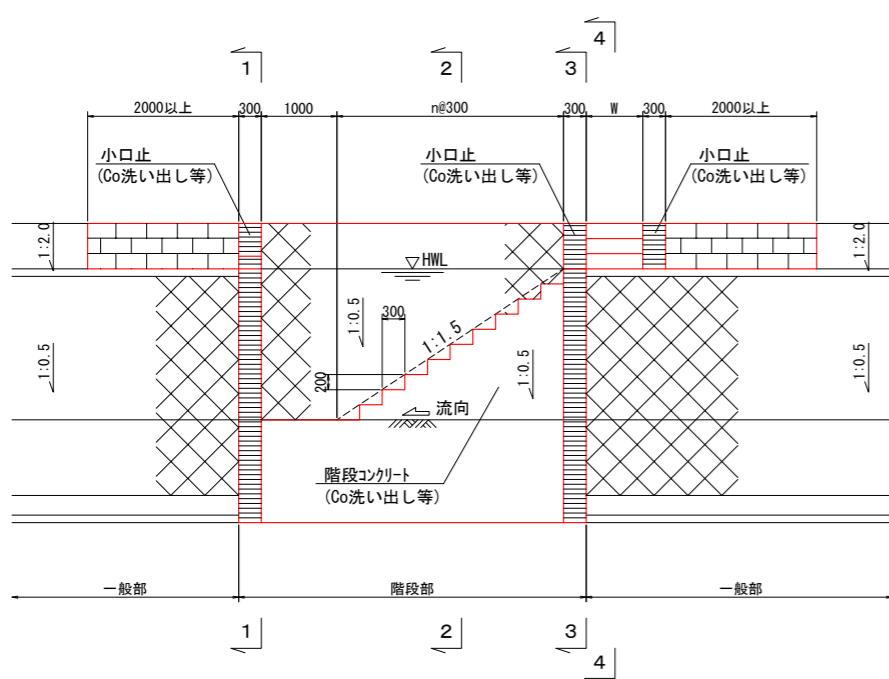
設置間隔は200mを標準とする。ただし、河川の規模など全体的な配置等を考慮すること

計画ポイント

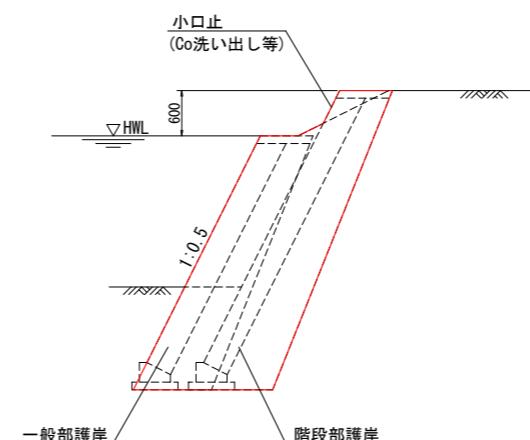
- ① 階段幅Wは0.5m～1.0mとし、標準0.75mとする。
- ② 階段のステップ幅は0.3m、ステップ高は0.2mを標準とし、端数は階段下端部にて調整する。
- ③ 2割法面のステップ幅は0.4m、ステップ高は0.2mを標準とし、端数は階段下端部にて調整する。
- ④ 2割勾配の護岸における階段工は「河川構造物設計要領(中部地盤)」を参照する。



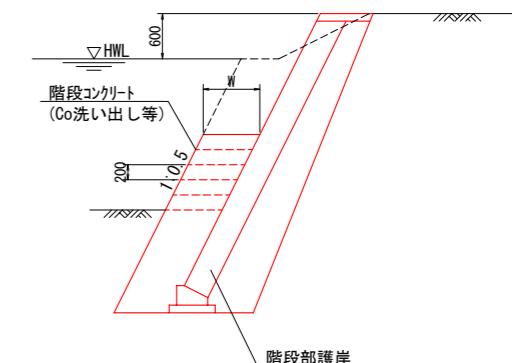
正面図



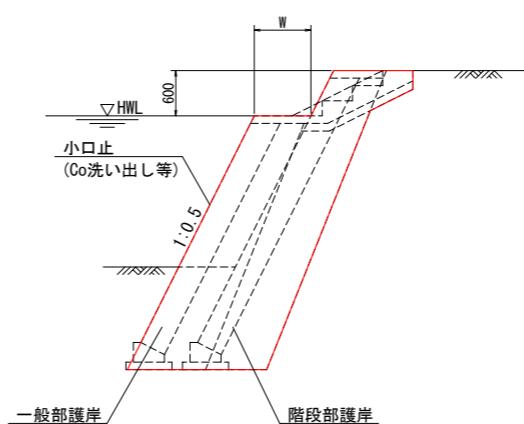
1-1断面



2-2断面



3-3断面



4-4断面

